

令和6年度 刀根山支援学校運営協議会 第1回会議 記録

日 時：令和6年6月18日（火） 16：00～17：00

場 所：本校：多目的ホール

出席者：中村 昌子、山田 亨、齊藤 利雄、竹永 英樹、平賀 健太郎

（学校運営協議委員）

永田 美穂子、高原 浩徳、笠岡 一行、洲本 昌悟、三澤 誠一、

船木 雄太郎、桑名 智寛（事務局員）

池上 真由、松井 康子、中林 啓、中尾 仁美

欠席者：宗戸 和幸（学校運営協議委員）

- 1 学校長挨拶
- 2 委員紹介
- 3 事務局員・出席者紹介
- 4 大阪府立刀根山支援学校 学校運営協議会実施要項の確認
 - ・令和6年度学校運営協議会実施要項及び運営に関する要綱を確認
- 5 令和6年度 会長・副会長の選出
 - ・会長 中村 昌子、副会長 山田 亨
- 6 協議
 - (1) 令和6年度 学校経営計画について
 - ・校長より、「令和6年度 学校経営計画及び学校評価」の中期的目標及び重点目標の達成に向けた具体的な取組計画・内容等を説明
 - (2) 各部署より活動報告
 - ・本校訪問教育部、大阪精神医療センター分教室、大阪大学医学部附属病院分教室、関西医科大学総合医療センター分教室、関西医科大学附属病院分教室より、在籍児童生徒数及び病状・行事予定等を報告

【質問】

委員

各分教室の1日付の在籍数より、4月は概ね0名。5月から在籍児童生徒数が増加している。資料に記載されている1日付在籍児童生徒数と実際に在籍する児童生徒数の差についてお聞きしたい。また、児童生徒の在籍児童生徒数が変動するところで、各部署の教員数をどのように補っているのか。併せて、子どもとの関係づくりについての工夫もお聞かせ願いたい。

【回答】

本校訪問教育部

1日付の在籍児童生徒数よりも、延べ在籍児童生徒数が実数近いものとなっている。例年、二学期に在籍児童生徒数が最も増加する傾向にある。その際、本校訪問教育部の教員だけでは対応が難しい。刀根山支援学校として各部署の教員と連携し、指導・支援を行っている。子どもとの関係づくりについては、教育相談の際に保護者から子どもの情報を聞き取るだけでなく、地域校からの聞き取りも行っている。さらに、授業観察等を通して子どもとの関係づくりに努めている。

大阪精神医療センター分教室

始業式から、在籍児童生徒数が増加していく。現在（6月18日時点）、小学部児童数15名、中学部生徒数15名、計30名が在籍。不登校を理由とする児童生徒が多く在籍しており、短時間の登校から始め、学習の到達度等も確認しながら、教室で学習することのできる時間を延長している。

大阪大学医学部附属病院分教室

1日付での在籍児童生徒数と現時点での在籍児童生徒数に差はない。地域校の要望に応じて、5月1日付は学籍を地域校とする児童生徒もいる。長期入院の児童生徒が多く在籍しており、同じ分教室に在籍している子どもあっても、自由に会うことができない。そのような実情を踏まえ、関係づくりの工夫を行っている。治療に対して前向きな気持ちを持つことができるよう、治療を頑張っている子ども同士をオンラインでつないでの活動を行っている。また、地域校と学習進度を適宜確認し、指導・支援を行っている。

関西医科大学総合医療センター分教室

短期入院の児童生徒が多く在籍。1日付の在籍児童生徒数と現時点での在籍児童生徒数は異なる。子どもとの関係づくりの工夫については、「明日行きたいと思える」、「人と関わるのが楽しい」、「少しでも良いから行こうと思える」雰囲気づくりに努めている。

関西医科大学附属病院分教室

在籍児童生徒数は、本日時点で4名。そのうちの児童生徒2名が長期入院。在籍児童生徒数に応じて、他各部署の教員と連携し、指導・支援を行っている。子どもとの関係づくりの工夫については、復学時を考慮して地域校と連絡を密にとり、退院時には医師や看護師、地域校教員等でカンファレンスを実施。

教頭

毎月1日付の在籍児童生徒数については、大阪府教育委員会への報告。4月1日付在籍児童生徒数が0名となっている分教室が多い理由は、児童生徒が地域校で使用する教科書の支給等、本校に転入する児童生徒が入院中も地域校にサポートしていただけるよう学籍の調整を行っているためである。同様の理由で、9月も在籍児童生徒数が少ない。5月1日付においては、地域校からの依頼により学籍移動を行うこともある。

(3) 令和6年度の地域支援に関する取組みについて

- ・外部向けの研修会、教員が地域校へ訪問しての巡回相談を実施していることを報告

(4) 令和7年度 教科書選定について

- ・数年前から枚方市が採択した教科書を使用している事を報告
- ・中学部は採択替えの年となるため、7月末の枚方市採択教科書の決定に準じて、刀根山支援学校の採択教科書も決定することを報告

○全体を通して質疑応答

【質問】

委員

令和6年度の学校経営計画の取組みについて、学校長が一番大切にされていることをお聞かせいただきたい。また、災害時の対応について、6年前の大阪北部地震を踏まえ、各部署で病院と連携しながら避難経路等の確認等されていると考えるが、入院している子どもや教員の安否確認を学校としてどのように行っているのか、もお聞かせいただきたい。

【回答】

校長

本校教職員には、刀根山支援学校としての一体感を持ってほしいと考えている。各会議をオンラインで実施することが増え、今年度転勤された教職員をはじめ、他の部署について知らない職員も多い。一体感を持たせるために、他の部署の教員も参加できる部署研修の実施や各学期1回対面での運営委員会を予定している。8月には、教員の同僚性をテーマとする研修を予定している。

災害時の対応については、病院内もしくは敷地内に教室があることから、基本的には病院の指示の下で避難等を行うようになっているが、昨年度同様に病院と相談しながら学校としてできることを行っていく。子どもや教員の安否確認については、電話やメール等を使用した安否連絡もあるが、本校ホームページ上にも「災害時ブログ（安否確認）」から災害時安否確認のフォームより、名前やコメント欄を記入いただくことで、教員の安否とその他必要な情報を管理職が確認できるようにしている。

教頭

今年度4月の全校職員会議において、全教職員を対象に「災害時ブログ」から安否確認の送信訓練を実施。

【意見】

委員

本校教育部の在籍児童生徒が0名の状況で、筋ジストロフィーの児童生徒を対象とする病弱支援学校のアイデンティティを維持していくことは難しい。センター的機能として、刀根山医療センターの医師を講師とする筋ジストロフィーの研修の開催等、今後どのように筋ジストロフィーの児童生徒を対象とする病弱支援学校としてのアイデンティティを維持が課題。

委員

筋ジストロフィーの児童生徒への専門性のある指導・支援等ができる学校であり、現状を踏まえたセンター的機能については課題と考える。同様に、発達障がいや摂食障がい、小児がんや心疾患などの慢性疾患についても、センター的機能を生かした取組みが求められている。

【質問】

委員

短期入院の在籍児童生徒について、アセスメントの期間に制限があると考えますが、前籍校との引継ぎ等で工夫されていることをお聞かせいただきたい。

【回答】

大阪精神医療センター分教室

アセスメントの工夫として、保護者だけではなく、前籍校や子ども家庭センターなどからも児童生徒の様子聞き取りを実施。

関西医科大学総合医療センター分教室

入院期間も含めてアセスメントを実施。

本校訪問教育部

訪問教育部ではアセスメントシートを作成している。他の支援学校では6年・9年の期間で実施している。短期入院の在籍児童生徒のニーズに応えることができるよう、個人ではなく、チームとして対応。

7. 報告

(1) 今年度の予定

第2回 令和6年11月19日(火) 15:00～

第3回 令和7年2月18日(火) 15:00～

8. その他

教頭

補足として、全部署で、入院中は地域校の教科書を使用した授業を行っている。そのため、多くの市教育委員会からご協力いただいている。枚方市採択の教科書を使用する理由については、本校の大阪精神医療センター分教室と関西医科大学附属病院分教室が枚方市に設置されており、同市の教科書を使用した授業が他市の教科書を使用した授業よりも多いためである。ただし、教科書給与については少ない。